

行政視察報告書

議会運営委員会行政視察		平成30年10月9日(火)～10日(水)
視察先 及び 視察事項	・平成30年10月9日(火) 埼玉県所沢市議会	1 議会報告会について(実施状況、課題とその対策)
		2 ワールドカフェ「みみ丸カフェ」について(実施状況、課題とその対策)
		3 議会評価について(実施状況、課題とその対策)
		4 専門的知見の活用について(実施状況、課題とその対策)
		5 議会施設について(議場・委員会室・会派控室など諸室及び設備等の視察含)
	・平成30年10月10日(水) 埼玉県新座市議会	1 新庁舎議会施設について(議会施設の視察含)
		(1) 施設の計画、設計に当たっての市議会の関わり方(要望等)
		(2) 施設整備の基本方針・設計方針
		(3) 各施設(諸室)の概要(面積・設備)

近年、議会の存在意義が問われるようになってきている。議員のなり手不足に頭を抱える自治体始め、市民感覚との乖離を指摘する声も上がる状況を鑑みると、議会に求められる機能・役割に対する議員の意識の向上と、より時代に合った議会のあり方への研究の必要性を感じるところである。

松本市議会は、議会基本条例を2009年に制定し、政策・広報・交流の3部会を設置し、要綱に基づいて議会活動の活性化を図ってきたが、10年が経過したため、昨年度から検証を始めている。こうした中、議会報告会は広報部会の所管であったのだが、参加者の反応などから、報告を中心とする形態から意見交換の時間を多く取る方向に舵を切ることになった。そこで、要綱を改定するか交流部会への所管換えを行うかの必要性が生じたため、後者を選択し、新たな議会報告会のあり方を模索することになった。

今回の視察では、所沢市議会の実施するワールドカフェ「みみ丸カフェ」の取り組みに注目した。どこの議会報告会でも、参加者の年齢構成が高く、偏りが課題となっており、所沢市議会においても同様の課題が生じたことから、通常の議会報告会とは別に、20代から40代までの若い市民層へ無作為に公募し、さらに高校生や大学生も巻き込んだワールドカフェを実施した。ファシリテーターは大学生が務める一方、議員は固い印象を持たれない様にポロシャツなどのカジュアルな格好を心がけるなど、互いの距離

を埋める工夫がされている。しかし、所沢をどうしたいという夢を語る現状の段階を、どのように政策にまで引き上げていくかがこれからの課題とのことであった。

松本市議会においても、議会報告会は年齢層に偏りがあり、戴くご意見も世代の関心を反映したものが多い。現在、高校2校と地元大学に議会が出向いて意見交換を行う取り組みを始めているが、現状では、30～40代の生産世代と意見交換を行う仕組みは設けていない。学生に留まらず、幅広い若い市民層の意見を反映するための仕組みづくりは必要であり、みみ丸カフェの取り組みは参考になると感じた。議会も行政も民意の反映には力を注ぐべきであり、多くの議員がこれについての議論を活発に行える議会であってほしいと願う。

議会施設については、近年盛んに指摘されるようになった、公共施設の適正な規模と活用方法の観点から視察を行った。庁舎建設に関しては、市民スペース等の確保に対する要望が高まっている背景を受け、市民参加型のワークショップなどを実施する自治体が増えているが、議場の活用についても、議会の開かれていない期間は市民に開放し、演奏会などを実施する自治体が増えてきている。しかし、議場は机や椅子が固定されている場合も多く、スペースを確保するのが困難である。そこで、議場を多目的ホールとしても活用できるよう、机と椅子を可動式にした他市の事例も出てきていることから、この点について2市を調査したが、両市とも机は固定式であった。両議会では特にこれについては議論されなかったようだが、新座市の場合は、週末議会にあわせてコンサートを実施しており、吹奏楽などの演奏の編成によっては、スペースの確保が困難になるとの説明があった。議場の活用について、柔軟に考えるべきであると感じている背景には、公共施設の活用という観点に加えて、東日本大震災以降に建設された庁舎が、防災機能を有していることにある。災害の起こり方によっては、いつ何時庁舎が避難所や待機所になるかわからない。こうした様々に起こりうる状況を加味すると、議場は単一目的に整備されるのではなく、多目的に整備されるべきであろうと考えるのである。

一方、議会としての機能・役割が将来に渡り十分発揮できるよう、ICT ツールを始め、プレゼンテーションや論点のアプローチに必要な設備は、積極的に配備されるのが望ましい。今回は自治体の視察であったが、できればICT ツールを積極的に活用している企業のオフィス環境や働き方も視察したいところである。庁舎は、今後数十年に渡って利用される施設であり、我々の目先の知識量だけで整備された結果、将来の議会活動や庁舎の活用方法が制限されてしまったということのないよう、これからの働き方や社会動向に関心をもち、将来社会に責任を持って整備に関わっていきたい。

平成30年 10月 15日

松本市議会議長 上條 俊道 様

議会運営委員会委員 小林 あや